

「セ・ロム」はゲーテの人柄をナポレオンにして「セ・ロム（これぞ、人間だ）」と言わしめた伝説の言葉。  
「エッセイの森」は面白く、有意義な読み物（木々）がたくさん集まり、森の如く知の緑を成す（SDGs）ことを意味する。

## ジョークサロン会員／リレーエッセイ①

# ジョークサロン一筋人生

筆者は本誌でお世話になっている「21 精気（世紀）ユーモア・ジョーク拾場（広場 h i r o b a）」で笑いを振りまいています「ジョークサロンの快鳥（会長）に指名され使命を果たしています。

「ジョークサロン」は月一度ジョークの作品を作ってきて、皆の前で披露し笑い合うという愉快な会です。そもそもこの会を知ったのは、平成元年（1989）8月8日の日本経済新聞の作品募集の記事を見て投稿したことに始まります。それにより例会に招かれたのは10月27日でした。

この会はその年の7月28日に洗剤や歯磨のメーカー「ライオン」の元常務で当時は子会社の相談役をされていた山下廣蔵（やました ひろぞう）氏が有志を募って始められました。

当初は「同業会ビジネスジョークの会」という名称で、ワインを飲みながら各自が身近で起こった楽しいことを報告するなかで、ジョークを飛ばし合っていて笑い合う和気藹々とした会でした。是非次回も来たいと思ったほどです。

しかしながら、当日は大変お元気だった山下氏は約2ヶ月後の12月14日に68歳で逝去されました。12月の例会の後、現在機関誌である「伝笑鳩」の変集鳥（編集長）である野本浩一さんと2人で

近くの喫茶店で話し合い、「作品を持ち寄って発表しあう」形で継続することになりました。そして、野本さんの尽力によりマスクにも取り上げられ、例会ではジョーク好きの参加者も徐々に増え始めました。それから各自が1ヶ月考えたジョークを書いた作品を配り、発表し、笑い合うという形になり、名称は「同業会ジョークサロン」、のちに現在の「ジョークサロン」と変遷し、第4水曜日を例会にすることで継続しています。

そして、筆者は平成19年（2007）9月より会長（快鳥）となり、「伝笑鳩」の編集長（変集鳥）は野本さん、会計（金鳥）は柴本和夫さんと当時も現在でも若く三役体制となり現在に至っています。

ところで、筆者の作品は長い間に変わり、最初の「サラリーマンことわざ笑事典」に続き「寿命記」なるものを作り続けていました。例えば、「1歳は犬寿（けんじゅ）」「犬がワンと鳴くからである。また、生まれる前に『犬の岩田帯』にお世話になったことにより、1歳は犬寿である」、「25歳は「笑寿（しょうじゅ）」——人生がおもしろくて笑えるころである。いつもニコツとしている」、「53歳は「誤寿（ごじゅ）」——我が人生をあやまったかなあと後悔したりする歳である」といったもの

であり、111歳まで続けました。112歳以降は例えば150歳となればさすが現実性がない。そこで、会のとどろの達人の高木正明さんの助言により「狂歌」に挑戦することになりました。「狂歌」は「5・7・5・7・7文字」です。全く0からの挑戦で「狂歌NEW門」としました。まだ現役サラリーマンの頃の作品の一部を並べてみます。

● 職場では 連発してる

オヤジギャグ 笑い一番 笑顔一番

● 酔ってますみ 上司説教 はじめたら

酔っているけど 正気をよそ

● 満員の 電車のなかで 吊革は

遠くふたり 近くなったり

● 金も無く 居酒屋行って 安酒を

明るく笑い 明日も楽し

● 吟醸酒 おごつてもらい 二・三合

うきうきとする 時はすぎゆく

● 給料の 明細見たら 額はゼロ

夢から覚めて ハット飛び起き

● 若い娘を 酒に誘って 盛り上がる

もつと頑張る 百歳めざし

● 若くあれ 背中を伸ばせ ハゲ隠せ

言うはやすいが 行動できず

● 温泉で つかっていたら 美女五人

網にかかった お魚となる

● 飲みに行き 若い女性が

「好き」という 足地に着かず

体が震え

● ストレスで 酒一升を 一日で

息子はあきれ 妻は横向く

● 居酒屋で とりの美女が  
酒こぼし 笑うでもなく  
怒るでもなく

● 駅の中 ハゲと女が 抱き合って

好きにされたら いいではないか

● 諭吉様 いつもいないが 時々

突如現れ 突如消える

● 狂歌さえ うまく作れば 面白い

楽しい明日 明るい未来

いかがでしょうか。本音を言えば、作品を作ることはなかなか難しくして未だに「狂歌NEW門」のままです。34年間続けてきて、人と接するときには笑い合えることが良いと思うようになりました。また、ある人から一ヶ月に一回会える人がいるのは素晴らしいことだと言われたことがあります。それ以上に良い会だと自負しています。これから先も「ジョークサロン」を続けて行きたいと考えています

### 著者プロフィール

そ だ ひで お  
曾田 英夫



ジョークサロン快鳥  
昭和23年京都市生まれ、  
関西学院大学経済学部卒業  
損害保険会社等に勤務  
務後、令和元年より「鉄道に  
史研究家」を勝手に  
乗っています。「発掘！  
明治初頭の列車時刻」（交  
通新聞社新書2016年）、  
『幻の時刻表』（光文社新  
書2005年、光文社知恵の  
森文庫2014年）、『列車名  
徹底大研究』（JTBマイ  
ロネBOOKS 2002年）、  
『時刻表昭和史探見』（J  
T B キャンブックス2001  
年）など多数。

創刊40周年 地域活性化ジャーナル  
モビリティとその世界

SINCE  
1984

# Carpia

カーピアセロム  
CELHOME

カーピアセロム創刊40周年企画

## 2023冬の交通安全Special

「交通事故のない安全で安心な北海道を目指して」

北海道知事 鈴木直道

「安全確保と環境保全にはクルマの点検・整備が必要です」

国土交通省北海道運輸局自動車技術安全部長 内木義昭

「スリップが要因となる交通死亡事故の実態について」

北海道警察本部交通部管理官兼  
交通総合対策センター所長

柴田 靖

「JAFフェスティバル2023  
in エスコンフィールド  
北海道」を開催!

NEW CAR IMPRESSION in北海道

HONDA N-BOX

2023/2024

12+1

冬将軍号